（別紙４）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2990300051		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホームわかくさ郡山館		
所在地	奈良県大和郡山市額田部北町822－1		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2990300051-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町４８－６　森田ビル５階
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な環境のもとで心身の特性を踏まえ、尊厳のある自立した日常生活を営むことができるように援助しています。また、わかくさ郡山館全体では、月１回認知症カフェを開催し、地域の方との交流の場を設け、ご利用者、ご家族共に参加を促しています。　毎年1回「生き活き祭り」開催し、地域の皆様も数多く参加して頂いてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

医療法人が運営する地域サテライトステーション陶の里（すえのさと）　「わかくさ郡山館」は1階にグループホーム、デイサービス、2階に小規模多機能型、、同一敷地内にケアプランセンターがあり地域の介護を担っている。グループホームは2ユニットからなり、ゆったりとした作りである。明るく清潔で食堂に面した中庭で暖かい日には、みんなでお茶を楽しんでいる。トイレは各居室から近い位置に3ケ所設けられ利用者の便宜を図っている。おいしい食事をみんなで食べることに特に力を入れ管理栄養士が考えたメニューを職員が手作りし陶器の器にきれいに盛り付け召し上がっている。また、お寿司の日や郷土料理の日などが設けられ利用者は心待ちにしている。施設内にある温泉や足湯や館内合同の催しにも参加し交流している。職員は「ちょっと待ってね」と言わないよう心掛けケアに励んでいる。みなさん仲が良く暖かい空気が流れているホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が日々確認できるところに掲示し共有を図っています。	『ADLの維持向上を目的とし～』『家族の安心～』『職員の自覚と共有～』という理念を事務室に掲げ昼礼時に職員で唱和している。	地域密着型サービスの意義をふまえ、職員が共有し実践に向けた理念を具体化する為の工夫に期待する。理念を公表し家族も認識できるような取り組みがあれば、なお良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、クリーンキャンペーンの参加し、地域の皆様と交流を図っています。自治会等より地域の行事参加へのお誘いを随時いただいています。	陶の郷において、地域に向けて年1回の生き生き祭りを開催、多くのボランティアの受け入れを行い一緒に交流を楽しんでいる。月1回の認知症カフェに家族と参加したり、自治会の運動会にも出かけて地域との交流を図っている。自治会館主催の演芸会やカラオケに参加していたが、会場が2階になり参加が難しくなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスのフロアを利用し、「認知症カフェ」を開催し、地域交流の機会を設けています。また、ラン伴にも参加し、地域の方々に認知症の方への理解の促進に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。ご家族や、自治会の方、行政の方に活動報告を行い、ご意見を伺っています。忌憚のないご意見を伺え、日々のサービス向上に繋げています。	運営推進会議は、市担当職員、地域代表者多数、家族の参加を得て、2ヶ月に1回小規模多機能と合同で開催している。会議ではグループホームの運営活動の状況報告と認知症にかかわる意見交換等が話し合われている	会議には家族代表として1名の参加であり家族の発言が少なく、事前に家族の意見収集や会議録の開示が行われていない。この会議の意義や目的を利用者家族へ伝え周知を図ると共に、参加を働きかける取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大和郡山市の介護相談員の方2名が月2回訪問されています。他事業所の悩み相談を聞かせていただき、当事業所の取り組み等を伝えています。	市の介護相談員2名が訪問し、利用者と面談し利用者の心身の状況や、レクレーション、お誕生日会等の話題を通して把握した利用者の情報について感想･参考意見等の報告を受けている。運営推進会議に出席する地域ケア包括推進課の職員に状況報告し相談している。ホームの便りは、運営推進会議の出席者に配布しまた、市役所等の広報ラックに設置している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束対策委員会を設置しており、身体拘束ゼロを掲げ、定期的に会議や研修も実施しております。玄関は外部からの不審者侵入防止の観点から施錠しています。	契約書に「身体拘束ゼロ」を掲げ、H30年度の法改正に準拠して、法人全体で2ケ月に1度の研修を行い、郡山館全体で身体拘束対策委員会を設置し、グループホームの職員も参加している。郡山館の玄関は、無施錠だがグループホームの出入り口は電子ロックにより施錠されている。外出願望の利用者には、職員が付き添い散歩し気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修には数名参加しているが、施設内では実施できていないので今後の課題となる。言葉遣いや声掛けの仕方など不適切な発言があった場合は注意し合うようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で数名の職員は理解しているが、全職員に研修の機会を設けるまではできていません。また、現在、それを活用するような事例はございません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時、制度改定時には契約書及び重要事項説明書を用い、懇切丁寧を心掛け、理解･納得いただけるよう努めています。また、ご家族の不安や疑問が払拭されるようにわかりやすく説明しています。		
10	⑹	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に利用者様の近況を伝えるようにしている。ご家族からの要望は管理日誌、申し送りノートに記載し、全職員が把握できるように努めている。内容によっては家族の意向を計画書に反映させている。	家族の来訪時に日々の様子を伝えるとともに、意見や要望を聴き、管理日誌、申し送りノートに記載し、職員間で、情報共有と周知を図っている。また、昼礼時に口頭でも伝えている。ホームは、書類の重複化に疑問を感じており簡素化を図りたいと考えている。	把握した利用者の情報を複数の書類に、その都度記録しているが、情報の整理方法や書式を簡素化に向けた見直しを行い、家族からの申し出が運営に速やかに反映させる取組みを期待する。
11	⑺	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全職員と個人面談の機会を作り、意見や提案を聞いている。他には毎月の会議、毎日の昼礼で情報共有、意見交換し、参加できない職員はノートを活用してもらっている。	管理者は、月1回行うグループホーム会議や年2回行う個人面談時などで職員から意見や思いを聴いている。職員の提案による加湿器の増設、湿度計の交換等を順次実施する方向で進めている。事務管理様式等の改善の提案もあり、書類や記載方法の見直しを図り事務の効率化と内容の充実に向けて検討を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	H27年には、就業規則等を全面改定し、職場環境及び労働条件の改善を行いました。また、定期的及び随時、職員と面談を行い環境整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践能力評価表等を用い、力量把握をしています。また、法人内の病院の研修に参加させたり、外部研修では認知症実践者研修･リーダー研修･管理者研修にも参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には積極的に参加させ、他事業所の職員等と交流を持ってもらうようにしています。今年は介護相談員の方と多事業所との交流会にも参加、それぞれの事業所の取り組みを報告しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から出来るだけ話を伺っていますが、、本人から情報が効けない場合は、ケアマネジャーから情報聴取アセスメントシート記入にて把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にもご家族から情報を得て、サービス内容、要望の対応方法等を説明している。入居時にも改めて説明し、意向等を確認しながら支援していくことで、良い関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多職種参加で判定会を開き、病歴や投薬内容、家族環境等からグループホームが適切であるかどうかを確認しています。認知症の症状等により、グループホームが適切でない場合は他のサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしています。創作を一緒にしたり、日常の生活の中での洗濯物を干したり、畳んだり等作業を出来るだけ一緒にしています。施設感を少しでも和らげるため、職員はユニフォームではなく私服としています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ月1回日々の様子を手紙にてお知らせしています。その内容を元に面会時お話しすることもあり、ご利用者について、色々教えて頂く機会が多くあります。安心して頂けていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に特に制限は設けておらず、前事業所の職員の面会もあります。又馴染みのお店に一緒に出掛けたりしています。	日々の会話の中から馴染みの場所等を抽出し、馬見丘陵にお弁当を持って出かけたり、コーヒー好きの方は珈琲店でモーニングサービスを楽しみ、また、馴染みの理髪店に職員と一緒に散髪に出掛ける方もいる。毎月外泊される方や正月に帰宅される方の外出支援も行なっている。馴染みの人については、会える機会が少なくなってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の周辺症状等で利用者同士のトラブルがないよう、スタッフがフォローしています。食事の席等配慮し双方穏やかで居ていただけるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会や、ご家族の相談に応じています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を聴取把握し、周辺症状への対応を行っています。本人の行動を理解し対応しています。	利用開始時にアセスメントを行い、利用者一人ひとりに日々の声かけを沢山行うことで思いの把握に努め、把握した情報は申し送りノートに記載し共有している。困難な利用者は、家族からも聴き取り、サービスをいろいろ試し表情やしぐさから好き嫌いを判断している。病歴、周辺症状に関しては利用開始時のアセスメントで把握している。ある利用者が塗り絵が好きだとの情報を活用したこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート記入にて把握に努めています。ご家族から出来るだけ一緒に生活されていた時の話を伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを見つけ、提供するよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前サービス事業所担当者や、ご家族から情報を聴取し計画に反映しています。	計画書の見直しは6ヶ月ごとに実施している。介護計画作成にあたっては、職員によるカンファレンスを行なっているがに家族は参加していない。利用者全員を対象に衰えないことを目標とした、外出支援、口腔体操、　生き生きと活動ができるレクレーションメニューを組み入れているが、利用者個々のプラン作成までは至っていない。	介護計画はＡＤＬ中心のメニューになっている。馴染みの関係支援や本人の意向を含めアプローチの仕方を工夫し家族も交えてアイデアを出し合い情報を集約して、その人らしく暮らし続けられるような楽しみごとも含めた笑顔が見える計画が作り上げられるよう期待する.。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に日々の様子を記録するとともに、職員間の情報共有としてブレインストーミング行う場合もあります。全スタッフの気付きを把握し、計画を見直す場合があります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪や買い物等で外出したり、ご家族が不可能な場合、受診等お連れしたりしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの演奏会等行っていただき、懐かしい人に会える事を楽しみにされている方もいらっしゃいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関の往診を依頼される方もありますが、それぞれの主治医を継続し、往診、受診の対応をしています。	専門の医療機関が、外部評価による月2回の訪問診療があり、約半数の利用者が受診している。残りは自身のかかりつけ医（内科、整形、皮膚科等）を受診している。精神科病院の認知症専門医に掛かる方もある。家族の付き添いが難しいときは職員が付き添うこともある。診察結果は、家族の訪問時や手紙で報告している。急変･緊急時は、まず主治医に連絡し、救急搬送の手順で対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併任の併設小規模多機能型居宅介護やデイサービスの看護師により充実した看護体制をとっている。また、24時間オンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療ソーシャルワーカーとは、入院時から情報交換を密に取っています。退院後の入所等を含め、空状況等お伝えしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期について家族に説明し、同意を得ています。利用者の状態に変化があった場合も適宜意向確認、対応の仕方等を確認しています。当法人に病院や介護医療院があり、入院して頂く場合が多いのが現状です。	利用開始時に、重度化した時の対応について、本人や家族に説明し、主治医と面談し家族の意見や希望を聴いている。母体が医療機関であり看取り介護は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ＡＥＤの研修等を何度か行っていますが、定期的な訓練は行えていません。急変時に対応できるよう手順は明記しています。新入職員も増えており、今後誰でも対応できるよう実践力をつけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しております。近隣の方々には参加いただけていませんが、運営推進会議では実施報告し、避難場所等の助言をいただいている。	年2回の避難訓練のうち１回は水害を想定した訓練を実施した。運営推進会議で非常時には施設の北面丘陵の高台に避難が可能との助言をもらった。避難訓練に消防署員の立ち合いを要請しているが実現していない。スプリンクラーは完備しており、非常時通報等の設備は専門の業者が保守点検を行っている。レトルトご飯、缶詰、水などを3日分の備蓄がある。	夜勤帯は職員が手薄になり、非常時の避難誘導が難しくなるので夜間を想定した避難訓練と運営推進員会などで地域の方へ支援を要請し協力体制づくりの取り組みが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできていると思います。	利用者との関わりにおいて「ちょっと待てね！」という言葉を厳禁し、手が離せない理由を説明することを励行している。また、丁寧であっても命令口調を避け行動を促す言葉遣いを心掛けている。職員は相互に注意しあえる環境づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような対応、声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程は職員が決定しているが、個々の好みやペース、その日の体調等を考慮した上で、行事参加や日常生活の決定は利用者の思いを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身で選択できる方には自己決定を促し、不都合あれば声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士と定期的に会議を実施しており、咀嚼･嚥下状態を考慮した食事提供を心掛けている。また、食後の片付けや盛付けなど簡単な調理にも参加いただいている。	イオン整水器の水を使用し、昆布と鰹節で出汁をとり手作りのおいしい食事に重点を置き、管理栄養士が作成した献立により減塩食、糖尿病食にも対応している。また、各利用者の好みのお茶碗と陶器の器に盛りつけた料理で職員も一緒に食事を楽しんでいる。嗜好調査を行い利用者の好物を把握し、郷土料理の日、外国料理の日、お寿司の日やサンドウィッチの日などと名づけ食事を楽しむ工夫をしている。盛り付けや洗い物等には利用者も加わっている。中庭でおやつをしたり、公園やフードコートなど車いすでも行ける場所に出掛け外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立･食材の用意は管理栄養士が行っております。毎日の食事量や水分量をチェックし、必要時には主治医、看護師、栄養士に相談し、個々に応じて提供できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に応じた口腔ケアの支援を行っている。また、訪問歯科の往診を受けている利用者もいております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入で、スタッフ全員が排泄パターンを把握し、適切なケアが行えるよう心掛けています。	各利用者の排泄パターンを把握し、適時に声掛けしてトイレ誘導している。毎朝のお茶タイムや食物繊維の多い食材を取り入れ排泄を促している。日中、おむつ利用の方はなく、夜間オムツを使用の方が4名、ポータブルトイレを利用している方が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、乳酸菌飲料等を取り入れたりしています。下剤が必要な方もいらっしゃいますが、繊維質の多い食材等を心がけ使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回午後の入浴としているが、拒否や希望はできる限り時間をずらす、曜日を替えるなどで対応している。	入浴は3日に1回の間隔で行っている。湯船につかる入浴を全員が好むわけではなく、シャワー浴を好まれる方もいる。更衣室と浴室の急激な温度差が生じないよう温度管理を徹底している。希望者には同性介助を行っている。入浴を嫌がる方には、以前から対処の仕方を書き溜めた事例を参考にして対応している。季節により、ゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で横になっていただけるよう、環境は調えています。又就寝の時間は決めておらず、個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬の内容を全職員が把握という意味では不十分なところもあります、特に重要な薬や服用法、副作用などは適宜看護師より申し送られ、下剤服用法などは一覧にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理のお手伝いやテーブル拭き、洗濯物たたみなど無理なく出来る事をしていただいています。認知症の周辺症状として、原因を把握し、穏やかに暮らしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望には添えていないと思います。自分の言葉で伝えられる場合以外にも、行きたい場所等はあるはずです。コミュニケーションを心がけもっと希望を引き出していくようにしたいと思います。	お買い物はスタッフが付き添って出かけているが、毎日行きたいとの要望にはスタッフの関係で対応できていない。すぐ隣の神社や施設の周辺を散歩したり、中庭で日光浴やお昼を楽しむことがある。外食にでかけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はしていただいていませんが、自由に使えるよう、ご家族からお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができる装飾に配慮し、清潔感のある環境整備に努めている。中庭を利用し、おやつを召し上がっていただいたりと季節感を味わっていただいています。	中庭を挟んで左右に各ユニットがあり、各居室に通じる広々とした廊下は、夜間には足元灯が点灯し歩きやすい。居室にトイレ設備はないが1ユニットの廊下に居室からの距離などに配慮し3ヶ所のトイレを設置している。居室入り口の花飾りの表札や書初めの習字、今日の献立や利用者の生年月日の掲示などが利用者や家族の話題になり、家庭的な雰囲気を醸しだす工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを置いたり、離れた場所にテーブルを置いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具を持参して頂いている。又観葉植物を置いたり工夫しています。	ベッド、床頭台、カーテンは事業所の設備であるが、それ以外の、タンス、小物入れ、写真等は各自好みのものを持ちこみ居室づくりをしている。	安全面の観点から、絵など壁の飾りつけに画鋲を使わない掲示方法や地震が起きたときのタンスや床頭台（キャスター付き）の転倒防止対策について検討されることを期待する。。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるようにを文字を大きく書いたりしている。又トイレの周りの壁は色を変えています。		